

2023.7.04 (火) 小児の6月初夏の感染大流行について

1. RS 4月 5名以下→ 5月10名(2倍)→ 6月15名(3倍)
ヘルパンギーナ 4月2~3日に1名→6月には毎日3名程度 (6倍程度)

2. 例年と比べて 6月に関して言うと
RSは5倍(この時期珍しい)、ヘルパンギーナも5倍以上

3. 今年の子供の感染 特徴

5月~6月

初めて本格的な熱の子が多い。しかもそれが3歳程度となっている。

何度も断続的に感染(発熱)

(免疫をもっていない乳幼児が増えたか)

咳喘息になってしまうこともあり、夜間・明け方の咳嗽に要注意(とくにRS)嘔吐も。

(花粉症ら連動か。寒暖差や黄砂の影響か)

咽頭痛と発熱多く、コロナと症状類似。+嘔吐してしまう→

→熱中症危惧される、脱水に注意。(夜の熱中症も注意。)

エアコンなどでのどをやられてしまう

4. 感染拡大・教育・保育の集団生活や過程の拡がり大で逼迫。

5. 問い合わせ件数、キャンセル待ち多く、厳しい。トリアージが必要かも。

土日パンク。今は木、土日、月までパンク

6. うがい 手洗い(大量流水で)・換気の工夫

発酵食品と、ヨーグルト、ひじきやごぼう食べよう(免疫ケア)

入浴と、睡眠

夜の熱中症も含めた空調管理 50~60%、25~28度